

令和 8 年度病虫害発生予報第 4 号（8 月予報）概要表

令和 8 年 7 月 2 8 日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）</u>		
（1）いもち病（穂いもち）		並
（2）紋枯病		多
（3）斑点米カメムシ類		多
<u>2 水稻（5月下旬以降の移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）（穂いもち）		並
（2）紋枯病		やや多
（3）縞葉枯病		並
（4）ヒメトビウンカ		並
（5）セジロウンカ		並
（6）ツマグロヨコバイ		やや多
（7）斑点米カメムシ類		多
（8）フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第 4 世代幼虫）	早	やや少
（9）イチモンジセセリ（イネツトムシ）（第 2 世代幼虫）		並
<u>3 大豆の防除対策</u>		
（1）べと病		
（2）ハスモンヨトウ		
（3）ダイズサヤタマバエ		
（4）マメシンクイガ		
（5）シロイチモジマダラメイガ		
（6）吸実性カメムシ類		
<u>4 なし</u>		
（1）ハダニ類		多
（2）果樹カメムシ類		並
（3）シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		並

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ※ 過去 10 年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>5 なす（夏秋栽培）</u>		
（１）褐色腐敗病		並
（２）オオタバコガ		多
（３）ハダニ類		並
（４）アザミウマ類		やや多
<u>6 ねぎ（秋冬栽培）</u>		
（１）黒斑病		多
（２）軟腐病		並
（３）シロイチモジヨトウ		やや多
（４）ネギアザミウマ		多
（５）ネギハモグリバエ		並
<u>7 いちご（苗）</u>		
（１）炭疽病		並
（２）ハダニ類		多
<u>8 茶</u>		
（１）炭疽病		並
（２）輪斑病		並
（３）チャハマキ（第 3 世代幼虫）		やや多
（４）チャノコカクモンハマキ（第 3 世代幼虫）		並
（５）チャノホソガ（第 3 世代幼虫）		やや少
（６）チャノミドリヒメヨコバイ		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ 並＊： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並＊」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の前 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

令和 8 年度病害虫発生予報第 4 号（8 月予報）

令和 8 年 7 月 28 日
埼玉県病害虫防除所

1 水稲（5 月中旬までの移植）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (穂いもち)	並	○7 月中旬の発生量：－ □7 月中旬の葉いもちの発生 量：並（±） □県予察ほ場の発生量：少（－） □5 月 1 日～7 月 27 日までの 感染好適条件の出現日数 33 日（平年：46.6 日）：並（±） □7 月中旬のいもち病発生状況 調査による発病地点率 38.1%（平年 41.3%）：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（－）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が発表する「いもち病（葉いもち）感染好適条件出現日数」（ 参照 3 ）を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。 ・上位葉に葉いもちの病斑が多いほど、穂いもちが発生しやすいため、注意深く観察して防除の有無や回数を判断する。
紋枯病	多	○7 月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場の発生量：多（＋） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（＋）	・水際部に初期発生を確認した場合は、幼穂形成期～乳熟期までに薬剤による防除を実施する。
斑点米 カメムシ類	多	○7 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □畦畔・雑草地発生調査による 1 地点平均生息頭数 38.5 頭 （平年 25.9 頭）：やや多（＋） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・イネカメムシなど比較的大型の斑点米カメムシ類を確認した場合は、必ず薬剤による防除を実施する。 ・本年は多雨のため畦畔雑草の生育が旺盛なことから、特にイネ科雑草の管理時期に注意し、出穂前後 2 週間は除草を行わないようにする。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）（1/3）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち) (穂いもち)	並	○7月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：少（－） □5月1日～7月27日までの 感染好適条件の出現日数 33 日（平年：46.6日）：並（±） □7月中旬のいもち病発生状 況調査による発病地点率 38.1%（平年 41.3%）：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（－）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が発表する「いもち病（葉いもち）感染好適条件出現日数」（参照 3）を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場をよく見回り早期発見に努める。 ・上位葉に葉いもちの病斑が多いほど、穂いもちが発生しやすいため、注意深く観察して防除の有無や回数を判断する。 ・常発地や感受性品種を作付している地域では、大型の斑点米カメムシ類との同時防除を検討する。
紋枯病	やや多	○7月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □昨年の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（＋）	・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂となり発生を助長するため、適正な追肥を実施する。 ・水際部に初期発生を確認した場合は、幼穂形成期～乳熟期までに薬剤による防除を実施する。
縞葉枯病	並	○7月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：並（±） □本作型の地域では抵抗性品 種の作付割合が高い（－） □8月のヒメトビウンカの予 想発生量：並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考にヒメトビウンカの防除対策を実施する。 ・被害株は感染源となるため、早めに抜き取り処分する。
ヒメトビ ウンカ	並	○7月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5 月下旬以降の移植）（2/3）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
セジロウンカ	並	○7 月中旬の発生量：並 □5 月中旬移植の 7 月中旬の発生量：多（+） □県予察ほ場の発生量：少（-） □5 月 1 日～7 月 27 日までの飛来予測日数 2 日（平年 6.7 日）：やや少（-） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・ほ場をよく見回り、早期発見に努める。
ツマグロヨコバイ	やや多	○7 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たない品種（「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「えみほころ」など）では多発しやすいため、早期発見に努める。
斑点米 カメムシ類	多	○7 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □畦畔・雑草地発生調査による 1 地点平均生息頭数 38.5 頭（平年 25.9 頭）：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・イネカメムシなど比較的大型の斑点米カメムシ類を確認した場合は、必ず薬剤による防除を実施する。 ・本年は多雨のため畦畔雑草の生育が旺盛なことから、特にイネ科雑草の管理時期に注意し、出穂前後 2 週間は除草を行わないようにする。
フタオビ コヤガ (イネアオムシ) (第 4 世代幼虫)	発生時期 早 発生量 やや少	○7 月中旬の発生量：無 ■7 月 27 日現在の有効積算温度による第 3 世代成虫の予測発蛾最盛日 7 月 23 日（平年 7 月 29 日）：早（+） □フェロモントラップによる誘殺数：やや少（-） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・第 4 世代幼虫が多発生すると被害が甚大になるため、ほ場での発生状況を観察し、発生が多い場合は薬剤による防除を実施する。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）（3/3）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチモンジ セセリ (イネツトムシ) (第2世代幼虫)	並	○7月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・有効積算温度による第2世代幼虫孵化最盛期は7月24日と見られるため、防除適期は7月28日～7月31日である。ほ場での発生状況を観察し、発生が多い場合は速やかに薬剤による防除を実施する。

【共通注意事項】

- ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 3：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam2026.html

3 大豆の防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
べと病	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に適期防除を行う。 ・在来系統や県奨励品種の「里のほほえみ」は本病に罹病しやすいため、早期発見に努める。
ハスモン ヨトウ	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）及び防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に、適期防除を行う。
ダイズサヤ タマバエ	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・開花終期～莢伸長期（開花始めから1～2週間後）を目安に防除を実施する。
シロイチモジ マダラメイガ	・子実肥大初期～中期（開花始めから2～7週間後）を目安に防除を実施する。
吸実性 カメムシ類	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・開花20～40日後を目安に防除を実施する。

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 なし

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
ハダニ類	多	○7 月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・高温期は増殖が速いため、こまめに発生状況を確認する。
果樹 カメムシ類	並	○7 月中旬の発生量：散見 □予察灯等による誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・雑草及び防風垣の着果性樹木（イヌツゲ、ヒバ類など）、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するので、同時期に防除を行う。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2) を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイ ムシ類 (ナシヒメ シンクイ)	並	○7 月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2) を参考に、収穫前日数に注意して薬剤散布を行う。 ・ほ場によっては、幼虫による被害果が見られるため、十分に注意する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら収穫前日数に注意して速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 なす（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
褐色腐敗病	並	○7月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・発病果実の早期発見に努め、見つけ次第切り取って園外で処分する。
オオタバコガ	多	○7月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ハダニ類	並	○7月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・高温期は増殖が速いため、こまめに発生状況を確認する。
アザミウマ類	やや多	○7月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	
【共通注意事項】			
・早期発見に努め、発生を確認したら収穫前日数に注意して速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(＋)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒斑病	多	○7 月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
軟腐病	並	○7 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・多肥栽培では発生が助長されるため注意する。 ・台風や集中豪雨などによる大雨で発生が助長されるため、明渠等を設置し地表水の早期排水を行う。
シロイチモジ ヨトウ	やや多	○7 月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。 ・ほ場によっては既に幼虫による食害が見られるため、十分に注意する。
ネギ アザミウマ	多	○7 月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
ネギ ハモグリバエ	並	○7 月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 いちご（苗）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○7月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・胞子が飛散しないよう、チューブかん水など水滴の跳ね返りがない方法でかん水する。 ・被害株は見つけ次第、速やかに除去し、適切に処分する。
ハダニ類	多	○7月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（+）	・高温期は増殖が速いため、こまめに発生状況を確認する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

8 茶

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○7月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。
輪斑病	並	○7月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
チャハマキ (第 3 世代幼虫)	やや多	○7月中旬の発生量：やや多 □県予察灯への誘殺数：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2) を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノ コカクモン ハマキ (第 3 世代幼虫)	並	○7月中旬の発生量：並 □県予察灯への誘殺数：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2) を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノホソガ (第 3 世代幼虫)	やや少	○7月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：少（－） □フェロモントラップによる第 2 世代成虫の誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
チャノミドリ ヒメヨコバイ	やや多	○7月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場の発生量：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するため除草を励行する。

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —

（令和 8 年 5 月 1 日～ 8 月 3 1 日）

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和8年7月23日発表)

出典: 気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html)

<予報のポイント>

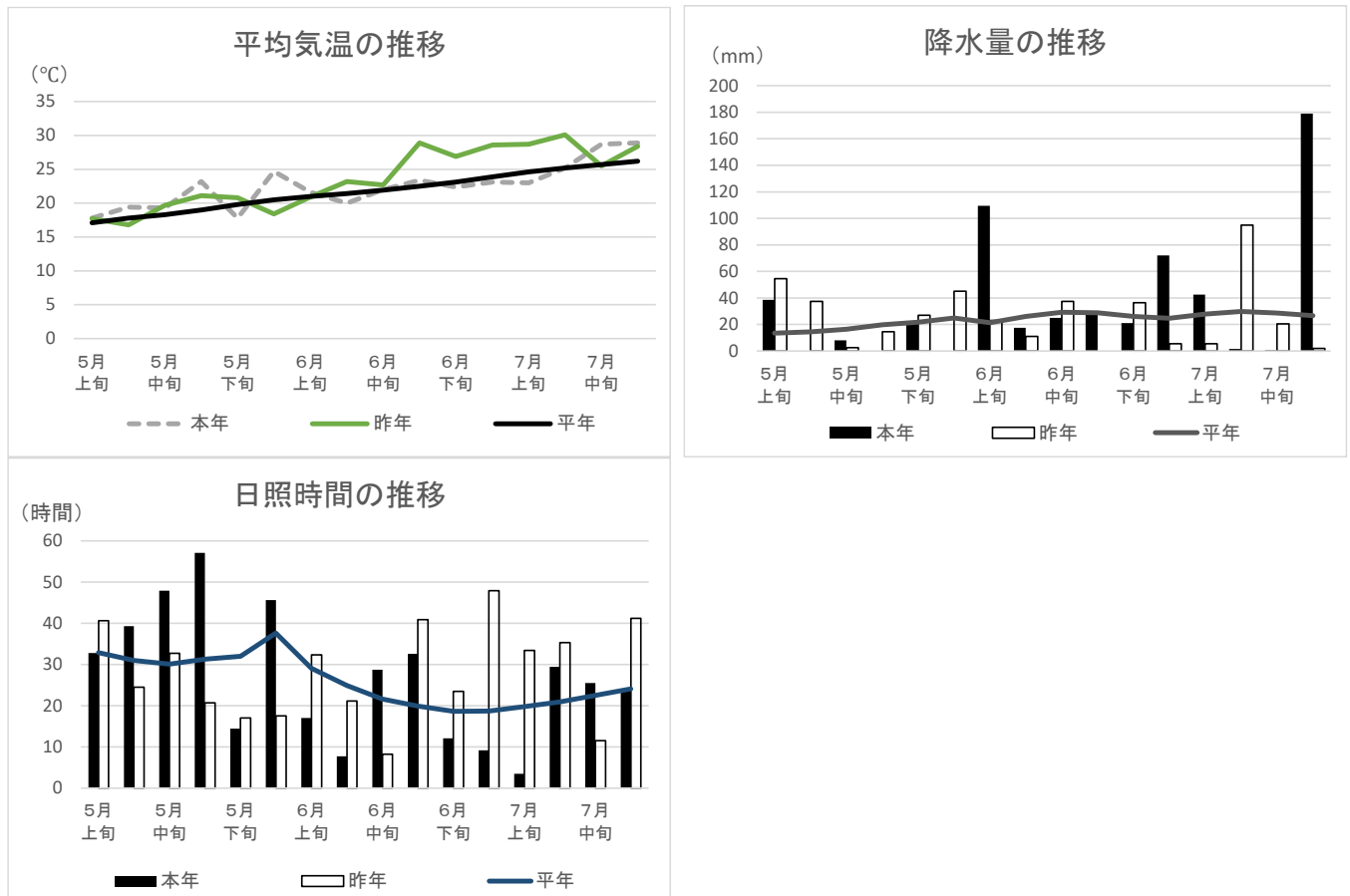
・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

関東甲信地方	【気 温】	10	30	60
	【降 水 量】	30	40	30
	【日照時間】	30	40	30

凡例: 低い (少ない) 平年並 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先

埼玉県病虫害防除所

〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784

電話: 048-539-0661 FAX: 048-539-0663

E-mail: k3603114@pref.saitama.lg.jp

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>